



### コーナー遊び

先日日本列島を襲った冬将軍は、彦島も見逃してはくれませんでした。皆様ご無事でしたか。

彦島は、周囲を海に囲まれているため、風は強いものの、暖流の対馬海流のおかげで、冬は県の中では比較的温暖で過ごしやすいとされています。ですが、たまに彦島にも雪が積もるときがあるため、そのたびに悲鳴をあげてしまいます。

一方、13日に行ったどんと焼きの日は好天に恵まれました。初めての開催でしたが、おかげさまで大変多くの方に来園していただきました。園児のご家族、卒園児のご家族、塩浜町の各自治会長や婦人会長の方々、そして、本園のご近所の方も大勢おいでくださいました。なかには、「ずっと前から近くに住んでいるけど、初めてここに来た」と、新鮮な眼差しで園舎や園から見える風景を楽しんでおられる方もいらっしゃいました。今後は、どんと焼きに限らず、地域の多くの方に来ていただける機会を設け、園児との交流もできたらいいなと思います。



どんと焼きでぜんざいを振る舞う

さて、園では昨年度からすべての年齢で「コーナー遊び」を導入しています。これは、部屋にそれぞれの遊びのブースを設け、自分が遊びたいところを自由に選ぶことができる遊びです。これまでの自由遊びとの違いは3つあります。

- ① 遊ぶものによって場所が決まっている。
- ② 他のコーナーに移る際は、自分が遊んだ物を必ず片付けてから移る。
- ③ コーナーに集った者同士で仲良く遊ぶ。

一日のすべてがこの時間ではありません。午前中は、全員で目的を共有した活動を行っていますので、コーナー遊びは、登園後に全員が揃うまでの時間や、午後の降園前の時間などに取り入れています。遊びを仕切りで独立・確保させることにより、自分がより自発的に、そして落ち着いて遊びに没頭できる時間になっています。

では、これまでのコーナー遊びの様子を紹介しましょう。

おもちゃや道具を種類別にまとめた可動式ラックを、子どもの動線を考えながら工夫して配置し、牛乳パック等で作った仕切りやラグマットでいくつかのコーナーを設けます。当初は、従来の習慣から、おもちゃなどを出しっ放しで他のコーナーに移る子が多く、その都度指導していきました。

そのうち、自分が遊んでいるコーナーにある物以外に、隣のコーナーの物も使って遊びを広げたいという要望も出てきて（車・電車・積木・ドミノ・ブロックなど）、子どもたちと話し合いながら柔軟に対応していきました。片付けは、保育者が声を掛ける前に自主的に行う子が増えてきました。

コーナーの中はひとつの社会です。同じ興味をもつ子どもが集い遊ぶことで仲を深めていきますが、限られた空間ですから時にはけんかも起こります。けんかの主な原因は、物やスペースの取り合い。必要に応じて保育者が介入することにより、物を交換したり、順番を決めたり、合体したりすることを覚え、自然に仲直りや解決の方法、ルールが生まれていきます。

コーナー遊びを通して主体性、集中力だけでなく、社会のルールやコミュニケーション能力、協調性、協同性といった、いわゆる非認知能力を身に付けていきます。コーナーに集った仲間と一緒に既存のおもちゃ等で存分に遊び込むことにより、次第に遊びのバリエーションを広げ、レベルを高めていくものです。そうして、時には身近な物や園の周囲にある豊富な自然の素材にも目を向け、より探求的で独創的な遊びを創り出してくれるものと期待しています。（園長 寺本 明生）

